

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

和庄中学校区 校番15 学校名 呉市立長迫小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学力の向上	主体的・対話 的で深い学び につながる思 考力・判断力 の育成 自分の命は 自分で守る児 童の育成	・「全国学力・学習状況調査」において全国平均値との差は、国語は2.3ポイント、算数は4.8ポイントと上回っている。(標準学力調査は12月に実施予定) ・授業の中で考える場を設定し、学力向上を目指して取り組んでいる。タブレット端末等ICTの効果的活用他、今年度は教員で研究授業の模擬授業を行い、効果的な発問や練習問題の検討などを行っている。 ・避難訓練や各学年に応じて防災にかかわる学習、土砂災害携帯マニュアルの作成を行った。その結果、児童の防災に関する知識がより深まり、自分事としてとらえられ、避難の仕方も具体的に考えられるようになった。	・今後も、児童の問いや既習事項を生かした「考えたい課題設定」をどう行っていくかの研究を続ける。学び合いの場では、意見の交流が積極的にできるように、自己の考えをしっかりともち、交流ののちにまた自己で考える時間の確保を行う。ふり返りでは視点を与えることで深い学びを自覚させ、次時の課題につながるようにしていく。 ・引き続き、各学年の発達段階に応じて、くり返し指導を行っていく。また実践的な避難訓練を計画的に行っていく。
**	和庄中学校区 スピリットに基 づく児童(生 徒)の育成	粘り強くやり 抜く児童の育 成 礼儀正しく感 謝の心をもつ 児童の育成	・自分の担当場所を、黙って、隅々まで時間一杯掃除するよう徹底を図っている。縦割り掃除のときに高学年が下級生に掃除の仕方を教えるという習慣を続けている。 ・掃除頑張り週間のアンケートでは、目標値の90%を1%上回っていた。 ・生活目標に挨拶と言葉遣いを掲げ、礼儀と感謝の心を身に付けるよう指導してきた。 ・挨拶週間のアンケートでは目標値の80%を1%上回っていた。 ・時と場に応じた言葉遣いができるの教師の見取りによるアンケート結果では、目標値の90%を9%下回っていた。	・引き続き、縦割り掃除の指導を通して掃除の仕方の徹底を図っていく。また、担当場所の掃除が終わったあとに何ができるか考えて動くことが難しいようなため、班長を中心に何をすると良いか下級生に指示が出せるようにしていく。 ・静止礼と会釈についてや時と場に応じた言葉遣いについて、発達段階に応じた指導を繰り返し行っていく。また、教員が手本になり進んで挨拶をする姿を見せ、意識付けさせていく。 ・返事に課題が見られる。返事をしているも声が小さいので、再度返事をさせるなどし気持ちの良い返事ができるようにしていく。
*	健康促進・体 力の向上	体力・運動能 力の向上 基本的生活 習慣の確立	・本校の課題種目である握力について、県平均を上回る児童は、昨年度の8%から42%に伸びた。給食後に机をふいて雑巾しぼりをする等、毎日の積み重ねで握力がついてきた。呉市の課題種目である50m走についても、県平均を上回った児童が昨年度の50%から58%と増えた。 ・早起き・朝ご飯の生活習慣ができていない児童が多いが、できていない児童が固定化し、遅刻等につながっている。メディアと早寝に課題のある児童が多いが、逆に5月よりも目標時刻を厳しく設定し、頑張ろうとする児童も多い。	・引き続き給食後に雑巾しぼりに取り組む。また、2学期より各学級にハンドグリップを置き、休憩時間等に自分で決めた数を握ることで握力をつける。 ・運動場で体育科の授業があるときは、必ず50mを1本走る。そのとき、5mくらい後ろから次の走者が同時にスタートし後者は追いつくよう、前者は追いつかれないように走ることで走力アップを図る。 ・担任・養護教諭による個別の実態把握(担任による元気カードの集計、養護教諭による個別健康相談)や指導(睡眠等の重要性を呼びかける)を充実させる。 ・集計結果を保健だよりで発信する。また、生活習慣に関わる動画等を使った児童、保護者への啓発活動を充実させる。 ・保健委員会から全校児童への呼びかけを行い、基本的生活習慣の意識を高める。
業務改善	教職員の主体 性・積極性が 発揮できる教 育環境の整備	児童生徒と向 き合う時間の 確保	・9割以上の児童が「自分にはよいところがある」と認識している。個別指導への取組を進め、学校・学級経営の中で一人一人に役割を与え、ほめる習慣が定着していることが要因と考える。 ・9割以上の教職員が日々の業務の中で充実感を得られていると回答している。働き方改革を進めるとともに、児童を全教職員で育てよう取り組んでいることが要因であると考え。	・引き続き個別指導への取組と役割を与えてほめる取組を進める。また、夏季休業中に実施した教職員による業務改善に関する熟議の内容を生かしながら、児童と向き合う時間の確保への取組を進める。